MICHINOKU COCA-COLA BOTTLING

Company Profile & Sustainability Report 2022

みちのくコカ・コーラボトリング株式会社 会社概要・サスティナビリティレポート2022

私たちの使命とビジョン

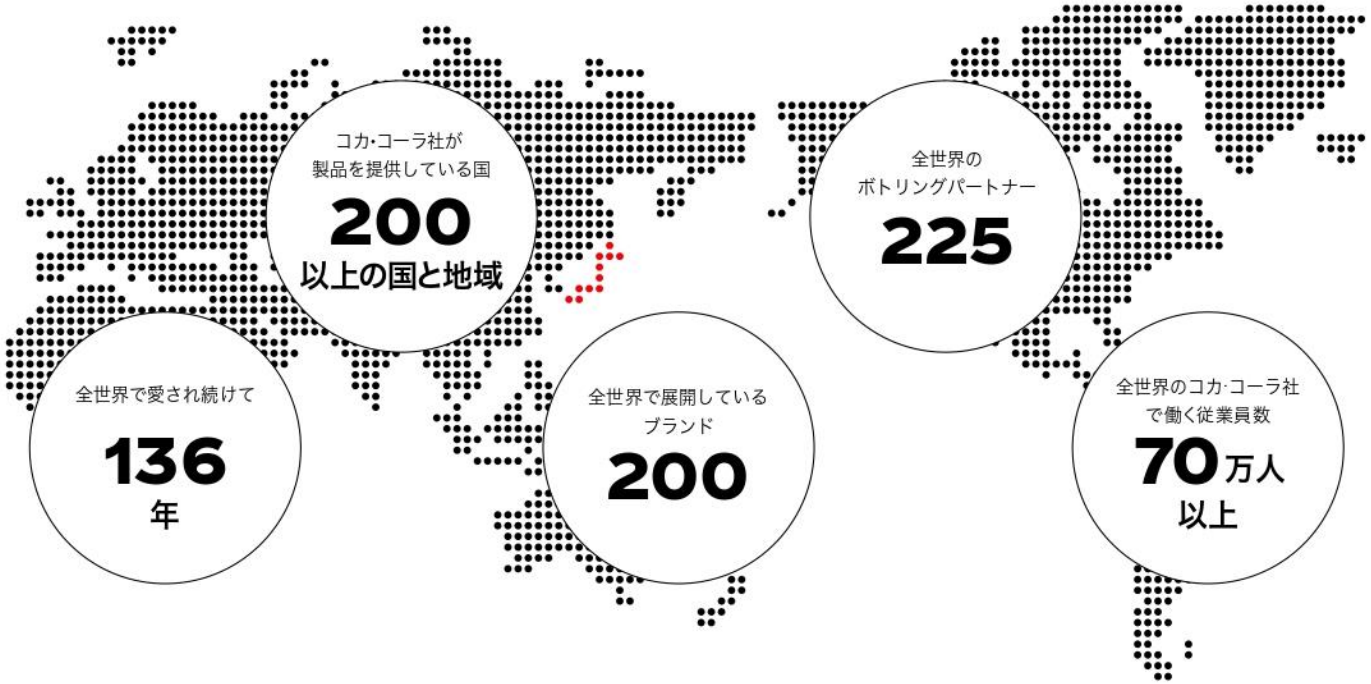
OUR PURPOSE

Refresh the World. Make a Difference.

世界中をうるおし、さわやかさを提供すること。前向きな変化をもたらすこと。

OUR VISION

私たちは、世界中で愛されるブランドや、丹精込めて作り上げている様々な飲料を通じ、
心身ともに人々をうるおし、さわやかさを提供してまいります。
より明るい未来を築くべく、持続可能なビジネスの実現を通じ、あらゆる人々の生活、地域社会、
そして地球にとって前向きな変化をもたらすことを目指します。



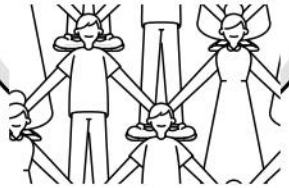
出展：日本コカ・コーラ社「2022 ESGレポート」より

数字で見る日本のコカ・コーラシステム

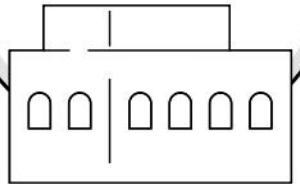
コカ・コーラシステム概要

ボトラー社
5社

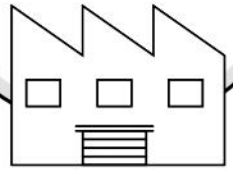
従業員数
約2万人



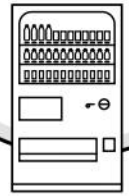
取引店舗数
約48万店



工場数
22工場（原液工場含む）



自動販売機台数
約88万台



多様性の尊重 Inclusion

約40% 女性管理職比率
2021年12月
日本コカ・コーラ単体

約40% 女性従業員比率
2021年12月
日本コカ・コーラ単体

地域社会 Communities

1,512 災害協定数
2021年末現在

約6,800台 地域貢献型自動販売機設置台数
2021年末現在

資源 Resources

40% PETボトル容器のサスティナブル素材※使用率
※サスティナブル素材：
ボトルtoボトルによるリサイクルPET素材と、
植物由来PET素材の合計

355% 水源涵養率※
2021年実績
※水源涵養とは製品の製造に
使用する量と同等量の水を
自然に還元すること

出展：日本コカ・コーラ社「2022 ESGレポート」より

日本のお客様の多様なニーズに応える製品ポートフォリオ

コカ・コーラシステムの事業活動は、「いつでも、どこでも、誰にでも」おいしい飲料をお客様にお届けしたいという願いとともに世界に広がり、
その願いは「コカ・コーラ」の誕生から136年経過した今も受け継がれています。
日本のコカ・コーラシステムは、炭酸飲料をはじめ、茶系飲料、スポーツ飲料、水など幅広いカテゴリーにおいて、お客様のライフスタイルや嗜好に寄り添った製品を展開しています。

炭酸飲料 **27%**

茶系飲料 **28%**

コーヒー飲料 **15%**

水 **13%**

スポーツ飲料 **11%**

果汁飲料 **2%**

エネルギー飲料、アルコール飲料を含む その他 **4%**

日本のコカ・コーラシステムの製品ポートフォリオ。2021年12月数量ベース。日本コカ・コーラ調べ

『健康』に着目したトクホ・機能性表示食品

『健康』に対する、日本のお客様の高い意識やニーズを反映し、コカ・コーラシステムではトクホ(特定保健用食品)や機能性表示食品のラインナップを強化しています。2017年には、食事から摂取した脂肪の吸収を抑えて食後の血中中性脂肪の上昇をおだやかにするトクホ製品「コカ・コーラ プラス」を、2021年には、記憶力と血圧にはたらくGABAを機能性関与成分として配合した機能性表示食品「からだおだやか茶W」を発売しました。
日本のコカ・コーラシステムでは現在、トクホ3製品、機能性表示食品3製品を展開しています。

適正飲酒のための取り組み

日本コカ・コーラは、適正飲酒の啓発のために、責任を持って自社アルコールブランドのマーケティング活動を行っています。企業ホームページ(https://www.cocacola.co.jp/sustainability/proper-drinking)での適正飲酒啓発やお酒と健康に関する情報発信など、アルコールの有害な使用の低減および防止に向けて、お客様に適切な情報を提供するように努めています。

【アルコールの責任に関する具体的な方針】

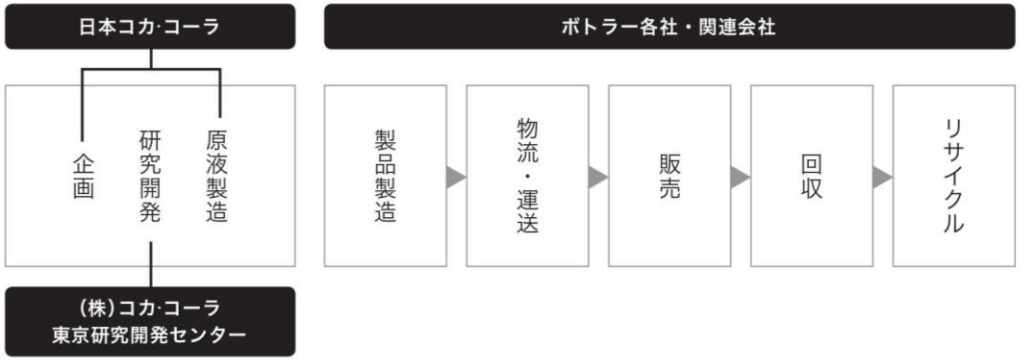
- 責任あるアルコールマーケティングに関するポリシー
- ローカルパートナーシップとコミュニケーションプログラム
- 情報と透明性
- 従業員の責任ある行動

出展：日本コカ・コーラ社「2022 ESGレポート」より

会社概要

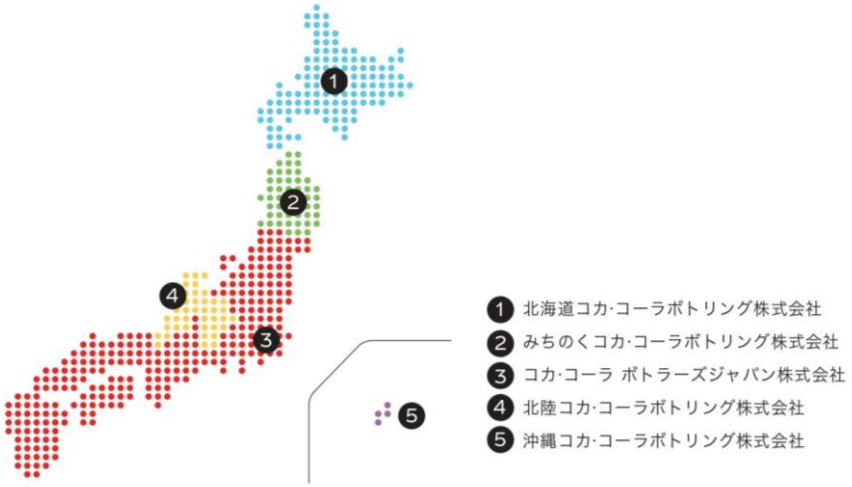
社　　名	みちのくコカ･コーラボトリング株式会社 MICHINOKU COCA-COLA BOTTLING CO., LTD.
設　　立	1962年(昭和37年) 11月6日
資 本 金	9,800万円
代 表 者	代表取締役社長　谷 村　広 和
本社所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通一丁目7-25 TEL 019-613-6665 (代表)　FAX 019-652-5711
従業員数	788名(2021年12月31日現在)
事業内容	コカ･コーラ社製品の製造および販売
販売地域	岩手県、秋田県、青森県

日本のコカ･コーラシステム



日本のコカ･コーラシステムは、原液の供給と製品の企画開発やマーケティング活動を行う日本コカ･コーラ株式会社と、製品の製造・販売などを担う5つのボトラー会社および関連会社で構成されています。

日本のボトリングパートナー



沿革

1962 (昭和37) 年	北斗飲料株式会社(資本金2,500万円)設立、国内11番目のボトラーとして誕生 [11月6日]
1963 (昭和38) 年	コカ･コーラ、ファンタの販売を開始 [4月]
1965 (昭和40) 年	北斗コカ･コーラボトリング株式会社に商号変更、本社を盛岡市より花巻市に移転 [10月]
	岩手工場(花巻市城内)竣工、製造を開始 [12月]
1966 (昭和41) 年	みちのくコカ･コーラボトリング株式会社に商号変更 [8月]
	自動販売機が始めて設置される
1968 (昭和43) 年	ポストミックスシロップディスペンサーを導入
1970 (昭和45) 年	青森工場(青森市浪岡)竣工、製造を開始 [3月]
	本社(花巻市城内)竣工
1972 (昭和47) 年	秋田工場(秋田市河辺)竣工、製造を開始 [6月]
1986 (昭和61) 年	花巻工場(花巻市太田)竣工、炭酸及び果汁缶製品の製造を開始 [5月]
1988 (昭和63) 年	みちのくキヤンテイーン株式会社を設立 [4月]
	岩手工場製造終了
1990 (平成 2) 年	みちのく自動販売機サービス株式会社を設立 [3月]
2002 (平成14) 年	創立40周年 本社新社屋(紫波郡矢巾町)竣工、移転 [11月]
	みちのくコカ･コーラ健康保険組合 介護老人保健施設「シェーンハイムやはば」を開設
	キャッシュレス自動販売機の導入
2007 (平成19) 年	みちのくコカ･コーラプロダクツ株式会社設立 [3月]
2012 (平成24) 年	創立50周年 [11月6日]
2014 (平成26) 年	青森工場生産終了 [3月14日]
2015 (平成27) 年	青森ディストリビューションセンター稼動 [3月]
	花巻ロジスティクスセンター竣工 [12月7日]
	秋田工場生産休止 [12月25日]
2016 (平成28) 年	花巻工場「無菌充填ライン」稼動、ペットボトル製品の製造開始。ナチュラルミネラルウォーター「い･ろ･は･す」の採水地として岩手県花巻市太田が新たに追加 [1月19日]
2017 (平成29) 年	花巻工場「ボトル缶コーヒーライン」稼動開始 [10月2日]
2018 (平成30) 年	みちのくコカ･コーラプロダクツ株式会社をみちのくコカ･コーラボトリング株式会社へ吸収合併 [1月1日]
2021 (令和 3) 年	本社を矢巾町より盛岡市に移転 [9月21日]

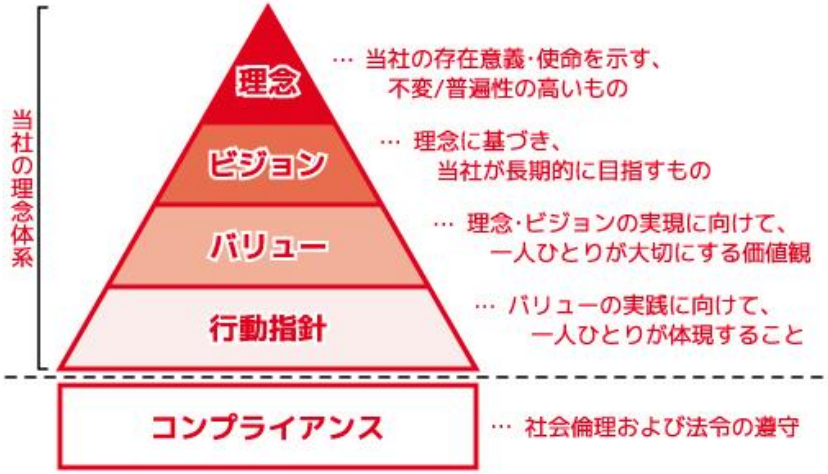
グループ会社

社　　名	みちのくキヤンテイーン株式会社 MICHINOKU CANTEEN CO., LTD.
設　　立	1988年(昭和63年) 4月30日
代　表　者	代表取締役社長　外 崎　達 正
資　本　金	5,000万円
本社所在地	〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南二丁目4-2 TEL 019-637-4711　FAX 019-637-4680
従業員数	404名 (2021年12月31日現在)
事業内容	自動販売機による清涼飲料水および食品等の販売、フードサービス、オフィス菓子サービス、 清掃用具の販売･賃貸、清掃業、リース業

社　　名	みちのくカスタマーサービス株式会社 MICHINOKU CUSTOMER SERVICE CO., LTD.
設　　立	1990年(昭和2年) 3月1日
代　表　者	代表取締役社長　日 景　司
資　本　金	5,000万円
本社所在地	〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南二丁目4-2 TEL 019-611-7001　FAX 019-637-5011
従業員数	81名(2021年12月31日現在)
事業内容	自動販売機の修理･保守･管理･オーバーホール、各種ベンダー機器の販売、太陽光発電システムの 販売･施工、移動体通信端末の販売および修理･保守、電気工事･通信設備工事、保険代理業

経営理念

私たちみちのくコカ･コーラボトリンググループは、「当社らしさ」や「大切にしたいこと」を、「理念」「ビジョン」「バリュー」「行動指針」の4階層に体系化し、経営理念として定めています。



理念

One Team
MICHINOKU COCA-COLA BOTTLING GROUP

One Team（ワン･チーム）

仲間とともに、お客さまとともに、ビジネスパートナーとともに、そして地域社会とともに、「One Team」で持続的な成長を目指してまいります。

みちのくコカ･コーラボトリンググループは、ライフスタイルをより充実させる清涼飲料をお届けするだけでなく、生活に密着したさまざまなビジネスを展開しております。みなさまの"前向き"で"ハッピー"なライフスタイルに寄り添う企業を目指してまいります。

ビジョン (当社が目指すもの)

ライフスタイルカンパニー

従 業 員	働きがいと誇りが持てる職場環境の実現と、家族や自身の幸福を追求する
顧客起点	お客さまにご満足と笑顔をお届けする
地域密着	企業責任を果たし、地域発展に貢献する

バリュー (私たちが大切にしたいこと)

ヘルス & ウェルネス	健康で心豊かなライフスタイルを創造する
スマイル & ハッピー	共通価値を創造し、喜びを分かち合う
サスティナビリティ	ビジネスの成長、人･社会へ貢献の好循環を生み出す

行動指針

エクスプローラー	**チャレンジ**
未来を切り拓くバイタリティ	失敗を恐れず挑戦する勇気
リーダーシップ	**クオリティー**
当事者意識、情熱、責任感	誠実さ、スピード、そして結果
ケイパビリティ	**コミュニケーション**
自己研鑽とチームへの貢献	相互理解、連携

サスティナビリティの取り組み

コカ･コーラシステムは、環境や日常生活、私たちを取り巻く地域社会などの各場面で、日本が直面する重要な課題に対し、ビジネスを通じて変化をもたらし、さわやかさを届けながら、未来を共創していくことに責任を持って取り組みます。

３つのプラットフォームと９つの重点課題

日本のコカ･コーラシステムのサスティナビリティの取り組みは、３つのプラットフォーム（多様性の尊重、地域社会、資源）で行われ、それぞれに合計９つの重点課題を設定しています。この９つの重点課題はさらに、喫緊の課題とする優先事項5 項目と、現時点では優先度は比較的低いが重要と捉える重点事項4 項目に分類しています。

また、持続可能な開発目標（SDGs）との関わりを検証し、当社のサスティナビリティの取り組みは、SDGsの目標2～17に該当します。当社の取り組みを推進することで、SDGsの達成も目指します。こうした重点課題をもとに具体的なアクションを進めるとともに、NPO や外部専門機関、有識者など第三者意見を取り入れ引き続き、時代に即した活動に取り組みます。

	多様性の尊重	地域社会	資源
優先事項	ジェンダー	・全国規模で行う2つのプラットフォーム（多様性の尊重、資源）で影響力を発揮 ・持続可能で、且つ、地域にも関連性のある取り組み	容器 / PET
	年齢 / 世代		水
重点事項	障がい者支援		温室効果ガス排出量
	LGBTQ		再生可能エネルギー

容器の2030年ビジョン

日本のコカ･コーラシステムは、グローバルビジョン「World Without Waste（廃棄物ゼロ社会）」に基づき「設計」「回収」「パートナー」の3つの柱からなる活動に取り組み、容器由来の廃棄物削減と、日本国内におけるプラスチック資源の循環利用の促進に貢献しています。
「ボトルtoボトル（水平リサイクル）」「ラベルレス・パッケージレス」「容器の軽量化」を推進し、2025年までにすべてのPETボトル製品にサスティナブル素材※を使用し、2030年までにすべてのPETボトルを100%サスティナブル素材へ切り替えることなどを目指しています。 ※サスティナブル素材：ボトルtoボトルによるリサイクルPET素材と、植物由来PET素材の合計

日本のコカ･コーラシステム「容器の2030年ビジョン」（ロードマップ／実績）

2019 実績 → 2020 実績 → 2021 実績 → 2022 目標 → 2025 目標 → 2030 目標

設計

サスティナブル素材使用率
※ 2020年までは ボトルtoボトル比率

- 2019 実績：21%
- 2020 実績：28%
  - 「い･ろ･は･す 天然水 100%リサイクルPETボトル」「い･ろ･は･す 天然水 ラベルレス」発売
- 2021 実績：40%
  - 「コカ･コーラ」の主要製品 100%リサイクル PETボトル 導入
- 2022 目標：50%
- 2025 目標：すべての容器をリサイクル可能な素材に切り替え
- 2030 目標：100%（新規化石燃料ゼロへ）
  - すべてのPETボトルをサスティナブル素材に切り替え

サスティナブル素材を使用している製品の割合（販売本数ベース）

- 2021 実績：サスティナブル素材を使用している製品の割合が90%以上に
- 2025 目標：すべてのPETボトルにサスティナブル素材を使用
- 2030 目標：PET樹脂の使用量 35%削減
  - 製品1本あたりのPET樹脂の使用量（2004年比）

回収

回収

- 2020（2020年）：東京都と清涼飲料業界でコンソーシアム設立
- 2020（2020年）：東京都東大和市とのPETボトル回収事業
- 2021（2021年）：「リサイクルしてね」ロゴの導入
- 2021年-2022年：六本木ヒルズで「ボトルtoボトル」リサイクルを実証実験
- 2030 目標：販売した量 / 回収した量
  - 国内で販売した自社製品と同等量のPETボトルを回収

パートナー

さまざまな協働

- 2019（2019年）：完全循環型PETボトルリサイクルを実現「一（はじめ）緑茶 一日一本」
- 2020（2020年～）：「一（はじめ）」シリーズへの拡大
- 「国際海岸清掃ボランティア活動」に参加
- 「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ2025」へ参画
- 2030 目標：さまざまなパートナーと連携し、より着実な容器回収・リサイクルスキームを構築・維持

出展：日本コカ･コーラ社「2022 ESGレポート」より

容器の2030年ビジョン

① 設計

「ボトルtoボトル（水平リサイクル）」の推進により、100%リサイクルPETボトルの導入を拡大

日本のコカ・コーラシステムでは2018年1月に発表した「容器の2030年ビジョン」に基づき、2025年までにすべてのPETボトル製品にサスティナブル素材を使用し、2030年までにすべてのPETボトルを100%サスティナブル素材へ切り替えることなどを目指しています。2021年5月には「コカ・コーラ」などの旗艦製品へ100%リサイクルPETボトルを導入したことなどが寄与し、コカ・コーラシステム全体の国内の清涼飲料事業におけるPETボトル容器のサスティナブル素材使用率は40%に到達しています。現在※1、国内で販売する5ブランド（「コカ・コーラ」「ジョージア」「い・ろ・は・す」「一（はじめ）」「ボナクア」）37製品に100%リサイクルPETボトルを使用しています。また国内で販売している90%以上のPETボトル製品※2に、サスティナブル素材が一部または全部使用されています。コカ・コーラシステムは引き続き、「ボトルtoボトル（水平リサイクル）」の推進などによる100%リサイクルPETボトルのラインナップ拡大と、容器由来の廃棄物削減を通じ、プラスチック循環型社会の実現に貢献します。

※1 2022年2月時点　※2 販売本数ベース

「リサイクルしてね」ロゴを約50%の製品に導入

コカ・コーラシステムではプラスチック循環型社会の実現に向けた啓発活動の一環として、2021年より、すべてのリサイクル可能な製品パッケージに共通の「リサイクルしてね」ロゴの導入を進めています。2022年2月時点で販売中の製品の約50%に「リサイクルしてね」ロゴの導入を完了し、さらに順次拡大中です。「リサイクルしてね」ロゴは、製品パッケージのみならず、広告物やPOP、リサイクルボックス等にも使用し、消費者のみなさまへのコミュニケーションを強化しています。

リサイクルしてね
100%リサイクルペット

出展：日本コカ・コーラ社「2022 ESGレポート」より

① 設計

ラベルレスを強化、容器の軽量化を促進

ラベルレス

「ラベルレス製品※1」は、製品容器からラベルをなくすことにより、プラスチック使用量を削減するとともに、ラベルをはがす手間をなくし、リサイクルのための分別を楽に行えるようにした製品です。コカ・コーラシステムでは、2020年4月に初のラベルレス製品「い・ろ・は・す 天然水 ラベルレス」を発売。その後ラインナップを拡充し、2022年4月には、「コカ・コーラ」「コカ・コーラ ゼロシュガー」100%リサイクルPETボトル350mlを、新ラベルレスボトルでオンライン限定発売しました。
現在※2、ラベルレス製品は8ブランド18製品に拡大しています。

※1 2020年4月、経済産業省において「資源有効利用促進法」に基づく識別表示に関する制度の変更が実施されたことにより、すべての流通段階において外装のある販売単位により最終消費者に販売されるものに限り、ラベルによる識別マークの表示を省略することが可能となりました(オンライン通販等でのケース単位の販売を想定)。

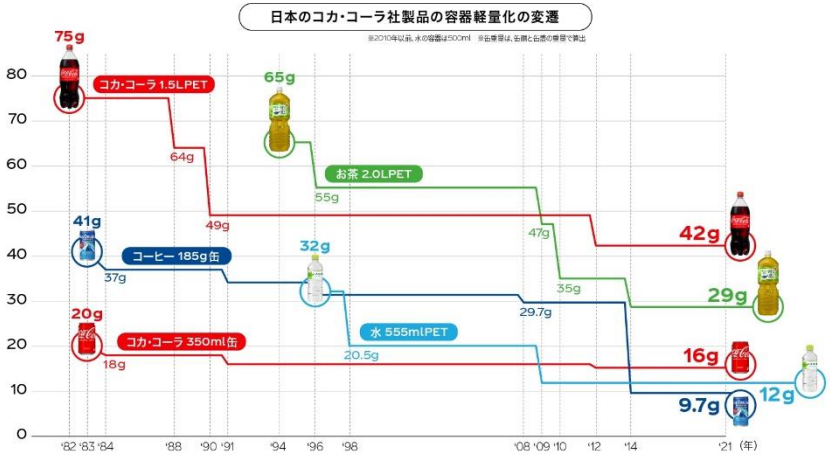
※2 2022年2月時点

100%リサイクルPET素材を使った新デザインの「コカ・コーラ」「コカ・コーラ ゼロシュガー」の発売は日本市場が初となります。

容器の軽量化

日本のコカ・コーラシステムは1980年代より、缶やPETボトルをはじめとした容器の軽量化による省資源化に取り組んでいます※。1983年に41gだったコーヒー缶(内容量185gサイズ)は現在9.7gに、また1996年に発売されたミネラルウォーターのPETボトル(内容量555mlサイズ)は、2009年に当時国内最軽量の12gまで軽量化されています。2021年には従来42gだった「コカ・コーラ」の700mlPETボトルを27gへと軽量化しました。これらの取り組みを通じ、容器1本あたりのPET樹脂使用量を2021年時点で約30%(2004年比)削減しています。
引き続き、内容物の保護やお客様の扱いやすさといった容器としての性能を維持向上しつつ、使用する資源量の削減に取り組みます。

※「容器軽量化の変遷」の詳細はP.43へ



出展：日本コカ・コーラ社「2022 ESGレポート」より

② 回収

コカ・コーラシステムは全国の自治体、団体やお取引先様とともに、使用済みPETボトルの回収やリサイクルの啓発、「ボトルtoボトル（水平リサイクル）」の推進に取り組んでいます。
日本国内における使用済みPETボトルの回収率は96.7%、リサイクル率は88.5%※で、諸外国と比べても極めて高い水準にあることが知られています。使用済みPETボトルは、適切に回収されれば再びPETボトルとしてリサイクルが可能です。コカ・コーラシステムは水平リサイクルの普及推進を通じ、プラスチック資源の効率的な利用と、海洋プラスチックごみの削減に貢献します。

※ともに2020年、PETボトルリサイクル推進協議会（可燃物に含まれて回収されている量は含まず）。

容器の2030年ビジョン「回収」の目標	2030年までに、日本国内で販売した自社製品と同等量のPETボトルを回収することを目指します。

六本木ヒルズでの「ボトルtoボトル」リサイクル実証実験

日本コカ・コーラとコカ・コーラ ボトラーズジャパンは森ビルが運営する六本木ヒルズ（東京都港区）において、事業系PETボトルの新たな資源循環モデルの確立を目指す実証実験プロジェクトに参画しました。このプロジェクトは環境省の「令和3年度バイオプラスチック及び再生材利用の促進に向けた調査・検討委託業務」の一環である『環境省 プラスチックの資源循環に関する先進的モデル事業』として実施されました。 https://www.cocacola.co.jp/press-center/news-20220124-11

空容器自主回収のテスト運用を開始

北海道コカ・コーラボトリングでは、自動販売機設置先のご協力を得ながら、空容器の自主回収専用ルートをつくり、テスト運用しています。回収したものは専門業者により材質別に分別され、再度PETボトル資源として活用されています。

ウエルシアホールディングス株式会社とのプロジェクト

ウエルシアホールディングス株式会社とコカ・コーラ ボトラーズジャパンは、2020年9月、栃木県内のウエルシア一部店舗にPETボトル回収ボックスを設置し、「ボトルtoボトル（水平リサイクル）」のリサイクルモデル構築に向けた実証実験を実施。2021年以降、対象地域・店舗を拡大し、栃木県・茨城県にて本格展開しています。

東京都東大和市とPETボトル回収事業を推進

東大和市とコカ・コーラ ボトラーズジャパンは、2020年10月、「地域活性化包括連携協定」を締結。市内のみなさまのリサイクル意識向上のきっかけとなるよう、「PETボトル自動回収機」を市内に設置し、協働でPETボトル回収事業に取り組んでいます。

PETボトルの回収から粉砕（フレーク化）までをグループ会社で内製化

北陸コカ・コーラボトリングでは、2002年より、グループ会社のGRNエコサイクルで容器のリサイクル事業を発足し、回収した空容器の分別・圧縮・再資源化を行っています。北陸エリアでは数少ないPETボトルの粉砕（フレーク化）までを行う中間処理業者として、公益財団法人日本容器包装リサイクル業者として認可され、各自治体（石川県白山市、野々市市、加賀市）とも連携し、PETボトルの回収リサイクルを推進しています。

出展：日本コカ・コーラ社「2022 ESGレポート」より

③ パートナー

日本のコカ・コーラシステムは、プラスチック資源の循環型社会の実現に向け、目的意識を同じくするパートナーとの取り組みを積極的に進めています。

容器の2030年ビジョン「パートナー」の目標	政府や自治体、飲料業界、地域社会との協働を通して、 より着実な容器回収・リサイクルスキームの構築と、その維持に取り組みます。

「一（はじめ）ほうじ茶」（セブン＆アイ・ホールディングス）

株式会社セブン&アイ・ホールディングスと日本コカ・コーラによる共同企画商品「一（はじめ）」シリーズは、セブン&アイグループの店頭で回収された使用済みPETボトルのみをリサイクルしてつくられた完全循環型PETボトル※を採用しています。2021年11月、第三弾としての新製品3品、「一（はじめ） ほうじ茶　静岡棒ほうじ茶入り」、「一（はじめ） ほうじ茶 京番茶入り」、「一（はじめ） ほうじ茶 八女（やめ）ほうじ茶入り」にも同PETボトルが採用されています。

※ 本製品のPETボトルの原材料として、セブン&アイグループの店頭で回収された使用済みPETボトルをリサイクルしたPET樹脂のみを、100%使用していることを表します。

「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ2025」へ参画（WWFジャパン）

日本コカ・コーラは、公益財団法人世界自然保護基金ジャパン（WWFジャパン）の「サーキュラー・エコノミーの原則」に賛同し、「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ2025」への取り組みへ署名しました。日本のコカ・コーラシステムでは、2025年までに、国内で販売するすべての容器をリサイクル可能な素材に切り替え、すべてのPETボトル製品にサスティナブル素材を使用することを目指しています。また、「ボトルtoボトル（水平リサイクル）」を推進し、可能な限りリサイクル素材を用います。現時点でリサイクルが困難な素材を用いている容器についても、代替素材などの研究開発を続けています。

https://www.wwf.or.jp/campaign/pcc2025/

PETボトルキャップの回収・アップサイクル「RETTER」（認定NPO法人グリーンバード）

認定NPO法人グリーンバードは、米国The Coca-Cola Foundationの助成を受け、日本各地でのPETボトルキャップの回収と、それらを原材料とした製品づくりに取り組んでいます。グリーンバードがプラスチックごみ問題の解決に向けて2021年より展開している「RETTER」は、グリーンバードが全国各地の清掃活動などで集めたプラスチックごみを洗浄・加工し、アップサイクルする（価値のある新たな製品に生まれ変わらせる）プロジェクトです。グリーンバードは今後、全国各地に設置予定のPETボトルキャップ専用の回収ボックスや、街や川、海での清掃活動などを通じてキャップを回収。コースターなどの製品にアップサイクルして販売し、得た収益を再び全国各地の清掃活動などに活用します。

出展：日本コカ・コーラ社「2022 ESGレポート」より

容器の取り組み

当社では、グローバルビジョン「World Without Waste (廃棄物ゼロ社会)」と、日本のコカ･コーラシステム独自の目標である「容器の2030年ビジョン」の実現を目指し、北東北における活動を推進しています。

国際海岸クリーンアップ（ICC）の取り組み

国際海岸クリーンアップ（International Coastal Cleanup: ICC）は、全米一の海洋自然保護団体「オーシャン・コンサバンシー（Ocean Conservancy）」の主催で始まった世界最大規模の海岸クリーンアップキャンペーンです。世界中で同時期（9～10月）に実施され、共通の方法で海岸ごみのデータを収集することが特長の取り組みで、世界中から集まったデータが蓄積され、世界のごみ問題解決のために活用されます。

2019年から当社もこの取り組みに参加し、清掃調査活動を岩手県盛岡市内で行っており、2021年からは実施箇所を増やし、青森県青森市内、秋田県秋田市内においても調査を行っています。

コカ･コーラシステムとしても昨年、全国17ヵ所以上での清掃活動実施にあたり、「ピリカ」というごみ拾い活動見える化ウェブサービスを導入し、ごみの種類や傾向を調査しました。

引き続き、ポイ捨てをなくすにはどのような対策が必要かを検討しながら、この活動の輪を広げていきたいと考えています。

「ピリカ」特設ページ

各県での清掃活動の様子

むつ湾クリーンアッププロジェクトへの参画

当社は2020年、2022年と、地元の関係団体やメディア関係者が主催する「むつ湾クリーンアッププロジェクト」に参画しています。

このプロジェクトは、海岸と街なかの清掃にとどまらず、海岸調査やごみアートの制作など、その活動内容は多岐にわたります。当社もこの取り組みに賛同し、清掃活動およびコカ･コーラ社のサスティナビリティーの取り組みを知ってもらうための講演などを行っています。

今後も参加者に対し、PETボトルへの正しい認識を持っていただき、より良い循環型社会の実現を目指していけるよう、こうした啓発や清掃などの活動に取り組んでまいります。

清掃活動の様子

清掃後記念撮影

講演の様子

岩手県３R推進キャラクターオリジナルリサイクルボックスの設置

2021年12月、日本財団「海と日本プロジェクト」と協働し、岩手県の3R推進キャラクターの造形を施した「『エコロル』リサイクルボックス」の設置および回収調査を実施しました。この試みは、飲料自動販売機の隣に設置されているリサイクルボックスに関連して「散乱によるペットボトルの河川・海への流出」や「空容器以外の異物混入」が大きな課題になっていることから、ペットボトルや缶をごみとしてポイ捨てすることなく正しく分別・リサイクルしてもらう啓発の一環として行うものです。設置前後で一般ごみの投入が減少するなど一定の効果がみられたことから、今年度もさらなる設置拡大へ向け準備を進めてまいります。

設置披露会の様子

水資源保護の取り組み ①

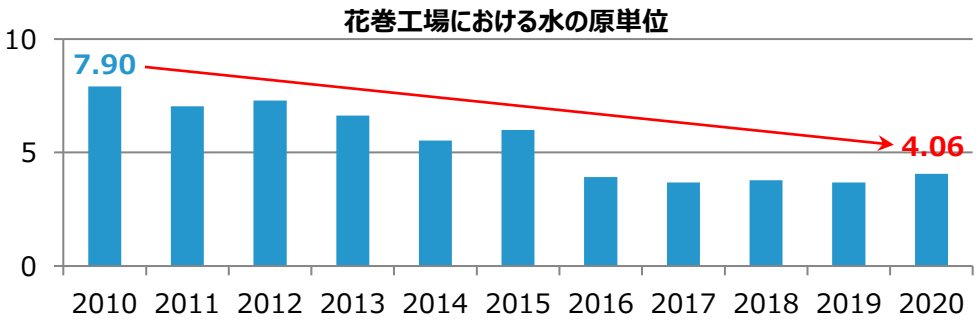
コカ･コーラシステムの水資源保護活動

コカ･コーラシステムは、製造過程における水使用量の削減（Reduce）、製造過程で使用する水の排水管理（Recycle）、地域の水源保護（Replenish）の3つの側面で水資源保護活動を推進しています。

日本のコカ･コーラシステムでは、ザ コカ･コーラ カンパニーが定めた世界共通のマネジメントシステム「KORE（コア）」(※)の品質基準を遵守しながら、自然環境に負荷をかけない節水･排水を徹底し、それにより製品に使用する量と同等量の水を自然に還すことを実現しています。

REDUCE　工場における水使用量の削減

製造過程では、洗浄用や加熱用など、製品の中身以外にも様々な工程で水が使われています。花巻工場では、「水の効率的利用」を目指し、製造過程における水の使用量削減に取り組んでいます。一定量の製品を製造するために必要な水の量を示す「水原単位」では、2010年は製品の製造に1ℓあたり7.90ℓの水を必要としていたのに対し、2020年では約半分の4.06ℓまで削減できていることを示しています。



RECYCLE　工場における排水管理

コカ･コーラシステムの工場では、容器や設備の洗浄水、冷却水などの排水を適正に処理して、下水道や河川に放流しています。排水処理の過程では、微生物を使った「活性汚泥法」などによって工場敷地内で浄化し、水質汚濁防止法などの国内法で定められた水質基準とコカ･コーラシステム独自のマネジメントシステム「KORE」の基準を照らし合わせ、より厳しい方の基準によって管理しています。

REPLENISH　水源保護

コカ･コーラシステムでは、工場水源と水源の脆弱性を特定する調査を実施し、水資源保護につなげる取り組みを世界共通で進めています。日本のコカ･コーラシステムにおいても、工場の水源域を科学的な調査を通じて特定し、水源の脆弱性を評価したのち水源保護計画を策定しています。

当社花巻工場は、全国に6箇所ある「い･ろ･は･す」の採水地のひとつ。水源域である豊沢ダム周辺や、そこから流れる豊沢川流域において、地元のステークホルダーと協働しながら、森林管理や環境保全活動を実施。そのほか、地元の子供たちに森や川について理解を深め、地球上の循環の仕組みや自然を守る大切さを学んでもらおうと、環境学習の機会を提供しています。

花巻工場のそばを流れる豊沢川と奥に望む奥羽山脈

※「KORE (コア)」… ザ コカ･コーラ カンパニーが世界共通の品質とオペレーション管理を行うシステム「Coca-Cola Operating Requirements」の略称。国内法令よりもさらに厳しい基準で、原材料の調達から製造、物流･輸送、販売の各過程で、規格やルール、作業手順を定めており、各工場で「KORE」を運用すると同時に、定期的な監査も行っています。

水資源保護の取り組み ②

工場水源域内の森林管理

コカ･コーラシステムでは、専門機関の協力のもと工場の水源域を科学的な調査を通じて特定した上で水源の脆弱性を評価し、水源保護計画を策定しています。この水源保護計画は工場周辺のステークホルダーとの協調・協働を前提として策定され、各地の地域特性・自然環境特性に合った水源保護活動につなげていくことを目的としています。

花巻工場の水源域においては、2017年から花巻市森林組合と協働した森林管理を行っており、製品の製造に使用した量と同等の水を自然に還元するという、コカ･コーラシステムが定めている水の還元率目標を達成しています。

花巻市森林組合との協定締結

森林管理のための作業道整備の様子

ステークホルダーとの協働取り組み

2018年から株式会社ユニバースとの協同取組みとして「奥州山脈の水源を守ろう！」キャンペーンを実施。期間中の対象製品1本につき2円が豊沢川土地改良区に寄付され、環境保全活動などに役立てられています。

共同企画キャンペーン

寄付金贈呈式の様子

植樹会や稚魚放流会の開催

花巻工場の水源域の山や川において、秋にはコブシやミズナラといった広葉樹の植樹会を、春にはサケやヤマメなどの稚魚放流会を毎年開催しています。水源域内で環境保全を行っている豊沢川土地改良区や豊沢川漁業協同組合と協働し、より豊かな自然環境を守り育てる意識を高めるため、花巻工場の近隣住民や児童と一緒に活動をしています。植樹会には、豊沢川土地改良区へ寄付された「い･ろ･は･す」の売上の一部が使われています。

植樹会の様子

稚魚放流会の様子

環境学習の機会の提供

将来を担う子供たちへの環境学習として、花巻工場の水源域を探検しながら、そこに生息する植物や動物を知り、どのようにして自然の中で共存しているかを感じたり、水の循環やPETボトルリサイクルに関する講座の実施を通じて、資源の有効利用の大切さを学ぶなどの機会を提供しています。

水源探検の様子

環境講座の様子

安全・安心でおいしい製品の提供

みちのくコカ･コーラボトリング 花巻工場

コカ･コーラ社製品を手にするすべてのお客様の健やかな生活への貢献は、いつの時代も安全でおいしい清涼飲料製品をお届けすることに努めてきたコカ･コーラシステムの基本的な価値観です。コカ･コーラシステムは、お客様の活動的で健康的な生活をサポートする取り組みとして、幅広い製品ラインアップの提供と、透明性のある製品情報の発信に積極的に取り組んでいます。

当社花巻工場は、1986年の稼動開始以来、30年以上にわたってコカ･コーラ社製品を製造してきました。2016年からは「い･ろ･は･す」の採水地となり、より一層地元の水を地元のみなさまへ届け、幅広い製品を楽しんでいただけるようになりました。また、工場見学の受け入れも行っており、コカ･コーラに親しんでいただける機会も提供しています。

花巻工場エントランスと製造の様子

品質管理

当社では、コカ･コーラ社の世界共通の品質とオペレーション管理を行うシステム「Coca-Cola Operating Requirements」、通称「KORE（コア）」によって、製品の安全と安心を守っており、日本のコカ･コーラシステムでもこれを遵守しています。「KORE」は、国内法令よりもさらに厳しい基準で、原材料の調達から製造、物流・輸送、販売の各過程で、規格やルール、作業手順を定めており、定期的な監査も行われています。

また、「KORE」の要求事項をクリアにすることに加えて、ISO9001、ISO14001、OHSAS18001、GFSI（グローバル食品安全イニシアチブ）に準拠した規格（FSSC22000）など、国際規格の認証を取得しています。また、工場の社員の労働安全と衛生管理の徹底や、製造工程でのリスクを軽減するため、定期的にリスクアセスメント（リスク査定）を実施しています。

お客様の声を経営に活かす仕組み

2006年に適合宣言した国際規格「ISO10002（JISQ10002）」では、この10002マネジメントシステムを通じてPDCAサイクルを構築し、お客様の声を積極的に企業経営に活かす取り組みを行うことで、お客様へ安全で安心できる製品やサービスを、安定して提供し続けるための継続的改善を実現しています。

日本コカ･コーラお客様相談室では、お客様の声を幅広く伺い、正しい情報を正しいタイミングで提供できるよう、電話、問い合わせフォーム、手紙のほか、Twitter（@CocaColaCare）」にて積極的なコミュニケーションを図っています。

工場見学のご案内

【場　所】 みちのくコカ･コーラボトリング株式会社 花巻工場
【日　時】 毎週 月･火･水曜日 14:00 ～ (約60分)
※ 製造ラインが稼働していない場合もあります。
【人　数】 1日30名様まで
【内　容】 コカ･コーラにまつわる話、製造ライン見学、環境への取り組み紹介等
※ 完全予約制です。詳しくは、当社ホームページにてご確認ください。
【問合先】 みちのくコカ･コーラボトリング 花巻工場 総務係　TEL 0198-28-2260

※ 2022年6月現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため見学休止中

地域に根ざした取り組み ①

当社は、コカ･コーラシステムの一員であると同時に、北東北を拠点に事業を展開する地元企業として、前向きな変化と社会的価値を生み出し、地域社会の発展に貢献するための取り組みを行っています。「健全な地域社会が健全なビジネスの基本である」というコカ･コーラシステムのグローバルで共通した考え方のもと、ローカルの課題やニーズに合わせ、さまざまなステークホルダーと協力し、北東北がより明るく笑顔であふれるための取り組みを進めてまいります。

地産池消の推進と地域限定製品の展開

当社は、製品を通じて人々の笑顔をもたらし地域社会へ貢献するべく、北東北限定製品や、地元の産品を使用した製品の展開を行っています。地域限定の製品として、岩手県産ブルーベリーエキスを使用した「い･ろ･は･すブルーベリー」や青森県産ふじりんごエキスを使用した「い･ろ･は･す りんご」などを開発し、地元住民や観光客の方々に楽しんでいただけるようにしています。

県産品を使用した製品

まつりや地域行事の盛り上げ

北東北では、四季を彩るさまざまなまつりが各地で開催されます。桜まつりや夏まつりなど、伝統を守りながら地域経済を支える大切な行事。より一層盛り上げ、来場者を笑顔にするようなサポートをさせていただいております。

北東北3県の夏まつりへの参加や協賛

スポーツや文化活動の応援

当社製品や自動販売機、キャンペーンなどを活用し、売り上げの一部を公共事業やスポーツチームなどの運営団体へ寄付しています。こうした寄付金を各種団体の活動資金としてご活用いただき、地域に明るい話題を提供できるよう、協働した取り組みを推進しています。

北東北のスポーツチームの応援

当社では、地元のさまざまなスポーツチームへの応援を通じて、地域へ感動や興奮、笑顔を届ける活動をしています。北東北3県それぞれをホームとするプロバスケットボールチーム「青森ワッツ」「岩手ビッグブルズ」「秋田ノーザンハピネッツ」へは、オリジナル製品の売上の一部をそれぞれのチームの活動資金として寄付しています。

アクエリアス スパークリング
北東北Bリーグ応援ボトル

スポーツ施設へのネーミングライツ

岩手県盛岡市と協働した地域社会の活性化に向けた取り組みとして、「盛岡市アイスリンク」のネーミングライツ契約を行い、「みちのくコカ･コーラボトリングリンク」として運営をサポートしています。スケートやカーリングの普及･強化を通じた地域のスポーツ振興に貢献しています。

みちのくコカ･コーラボトリングリンク

地域に根ざした取り組み ②

ヘラルボニー社との取り組み

当社は、「異彩を、放て。」をミッションに、福祉を起点に新たな文化を作ることを目指す福祉実験ユニット、ヘラルボニー社と協働で様々な取り組みを行っています。

2021年、盛岡市に設置した「ヘラルボニーアートラッピング自動販売機」は同社がライセンス契約を結ぶアーティストの作品を自動販売機にラッピングしたもので、売上の一部をアーティストに還元しており、障がいのある方が描く作品を身近にし、イメージを変えるというチャレンジに協働しています。

アートラッピング自販機

「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界文化遺産登録のPR推進

当社では、2021年7月27日に世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」を通じ、北東北の魅力発信や地域の活性化、および自動販売機にその地域ならではのデザインをあしらいながら設置を増やしていくことで、観光客の回遊を促し、地域経済への貢献を図っています。

青森県青森市アスパムで行った設置披露会や同県つがる市で設置された自動販売機

産学官連携の取り組み

当社は、復興支援プロジェクト「いわて三陸復興のかけ橋」の一環として、東日本大震災の風化抑止、三陸地域の特産品の認知、および消費拡大を目的に、岩手県立大学の学生団体と協働して、飲食店などで提供される新たなオリジナルメニューを展開しています。

岩手県盛岡市で行ったオリジナルモクテルのプレゼンテーション大会の様子

フードロス削減に向けた取り組み

当社では、特定非営利活動法人フードバンク岩手、一般社団法人フードバンクあきたへ継続的に製品を提供し、フードドライブによる食料支援に取り組んでいます。このフードドライブでは、当社の在庫となっているコカ･コーラ社製品のうち、賞味期限が迫るなどして販売できなくなったものを定期的に寄贈しています。

また、2021年度より社会福祉法人青森県社会福祉協議会「こども宅食おすそわけ便」へも寄贈を開始し、北東北3県でのフードドライブへの推進を継続してまいります。

この取り組みにより当社製品を通じて、一人でも多くの方々へ、少しでも明るさや前向きさをお届けしたいと考えています。

フードバンク岩手との契約締結

フードバンクあきたとの契約締結

青森こども宅食おすそわけ便へ寄贈

フードロス対策ラッピング自動販売機の設置

この自動販売機は、当社が扱うコカ･コーラ社製品のうち、賞味期限が近づいたものを通常の半額程度で販売し消費を促進するものです。ラッピングデザイン、キャッチコピーやアイコンについては、盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校の学生がデザインしています。

岩手県花巻市で行った設置披露会

設置された自動販売機

地域に根ざした取り組み ③

北東北の自治体との災害協定の締結

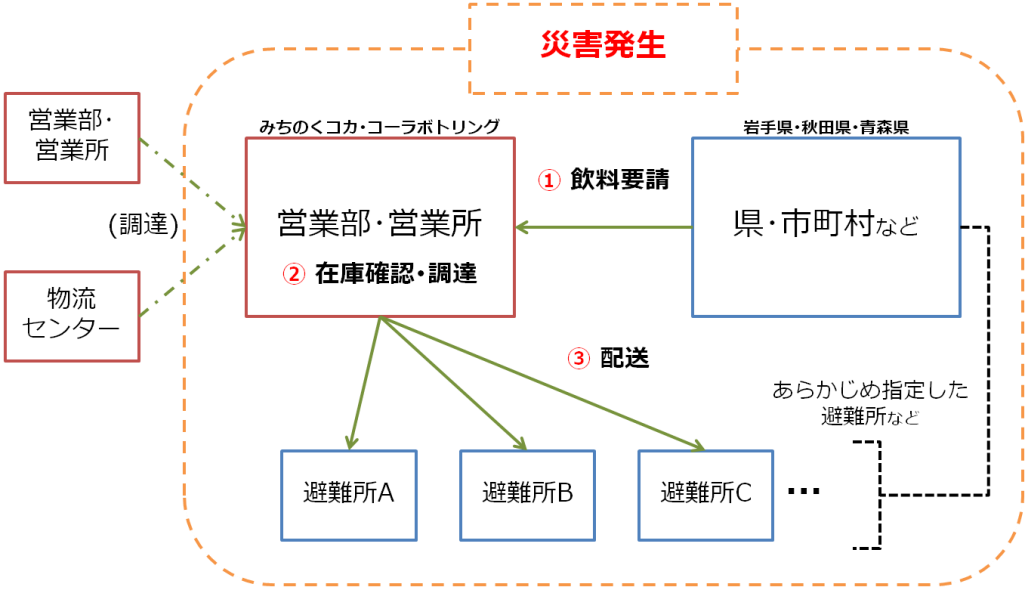
当社では、2007年より、岩手県･秋田県･青森県の各自治体との災害協定の締結に取り組んでおります。有事の際に迅速に地域のみなさまへ寄り添い、ライフラインである飲料の提供をすることは、非常に重要な当社の使命であると捉え、各市町村様と協定締結を進めています。

災害協定を締結することで、地震･風水害等の災害発生時や発生のおそれがある場合に、飲料水を迅速に提供するための必要な事項を定め、日頃から各自治体と当社との連携体制を整えます。

2022年6月末日現在、災害協定の締結は当社事業エリア3県合計で84件を数えます。

災害協定の締結先一覧　※ []内の数字は締結年

岩手県31件	・岩手県[2007] ・岩手県警察本部[2012] ・奥州市[2007]、矢巾町[2014]、紫波町[2014]、雫石町[2014]、岩手町[2014]、盛岡市[2014]、陸前高田市[2014]、滝沢市[2015]、住田町[2015]、釜石市[2015]、金ケ崎町[2015]、一戸町[2015]、大船渡市[2015]、軽米町[2015]、久慈市[2015]、八幡平市[2015]、大槌町[2015]、普代村[2015]、一関市[2015]、山田町[2016]、田野畑村[2017]、花巻市[2017]、宮古市[2017]、遠野市[2017]、岩泉町[2017]、西和賀町[2018]、二戸市[2019]、野田村[2020]平泉町[2022]
秋田県20件	・秋田県[2007] ・秋田県警察本部[2014] ・大仙市[2007]、潟上市[2014]、秋田市[2014]、能代市[2014]、横手市[2015]、にかほ市[2015]、仙北市[2015]、由利本荘市[2015]、三種町[2015]、五城目町[2016]、井川町[2016]、八峰町[2016]、大館市[2016]、美郷町[2020]、東成瀬村[2021]、羽後町[2021]、鹿角市[2021]、小坂町[2022]
青森県33件	・青森県[2007] ・青森県警察本部[2015] ・むつ市[2009]、弘前市[2011]、七戸町[2012]、大鰐町[2013]、八戸市[2015]、黒石市[2015]、今別町[2016]、鰺ヶ沢町[2017]、五所川原市[2017]、野辺地町[2017]、中泊町[2017]、外ヶ浜町[2018]、おいらせ町[2019]、三沢市[2019]、十和田市[2019]、平川市[2020]、つがる市[2020]、大間町[2020]、深浦町[2021]、平内町[2021]、鶴田町[2021]、六戸町[2021]、青森市[2021]、横浜町[2021]、南部町[2022]、板柳町[2022]、藤崎町[2022]、蓬田村[2022]、東北町[2022]、東通村[2022]、風間浦村[2022]



災害協定に基づいた製品調達のフロー

交通事故防止への取り組み

当社は、2019年から歩行者が絡む交通事故を防止する目的で、信号のない交差点等の歩道へ貼り付け、歩行者に対し一時停止を促す「ストップマーク」の寄贈を、自治体や地域の交通安全協議会に行っています。コカ･コーラ社らしい楽しくユニークなデザインで子供からお年寄りまでの全世代へ注意喚起を促し、交通事故防止を図っています。

青森県五所川原市へ寄贈の様子

歩道へ実際に貼り付ける様子

東日本大震災からの復興

コカ･コーラ復興支援基金

「コカ･コーラ 復興支援基金」は、東日本大震災によって甚大な被害を受けられた被災地の復興支援のための資金拠出を目的に、公益財団法人コカ･コーラ教育・環境財団内に、2011年3月24日にザコカ･コーラ カンパニーにより設立されました。

この基金は、2011年からの5年間、財団の活動理念「心豊かでたくましい人づくり」に基づき、次世代を担う子どもたちの教育支援をはじめとした、3分野・4種の事業を展開し、当社は、本基金を運用し、行政、特に教育委員会と緊密に連携し様々な支援活動を主体的に行ってきました。

太陽光発電設備とスクールバスの寄贈

2011年からの3年間で、県内小･中学校23校へ太陽光発電･蓄電設備の設置助成と、高校･特別支援学校5校へスクールバスを5台寄贈。さらには、中･高生79名にアメリカやイギリスへのホームステイ研修を実施しました。2017年から2020年には、県立高校8校の生徒410人を対象に「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を実施してきました。

ニーズの変化に柔軟かつ迅速に対応

発災直後、当社では各行政機関からの緊急物資要請に迅速に対応し、国内外のコカ･コーラシステムから岩手県に対し3万数千ケースの飲料水を無償提供したほか、災害救援自動販売機等を活用して一般の方々にも無償で提供しました。

発災直後は物資の提供や設備復旧に対するニーズが高かったものの、次第に次世代を担う子供たちの災害や環境問題に対する学習意欲が高まり、多様な学習機会を提供する必要性を感じました。当社にとっては、ライフラインである飲料水の販売という使命感と、地域社会と共に持続的な成長を目指すという企業意識が一層強まりました。

英語コミュニケーションスキル研修プログラムの様子

将来を担う子供たちの可能性や夢を応援

多様な学習機会の一つとして企画した「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」の中で、海外からの留学生（ネイティブ）講師との半年間にわたる授業や交流等を通じ、多くの生徒が将来への夢や世界への視野を広げました。あるいは、これを機会にもっと英語に親しみたい、英語力を高めたいと感じてもらえたことはプログラムの大きな成果であり、これこそがコカ･コーラシステムが標榜するサスティナブル（持続可能な社会）そのものだと感じるものでした。岩手県知事のサイン入り修了証書授与も生徒たちに大きな達成感をもたらしました。当社は、地域社会の持続的な成長を見据え、行政と連携を取りながら復興をさらに加速させる取り組みを継続してまいります。

新型コロナウイルスへの対応

Refresh Japan

こんなときこそ、コカ･コーラにできること。

日本のコカ･コーラシステムでは、日常生活に必要不可欠な飲料を製造販売する企業群として、新型コロナウイルスの感染拡大防止と、お客様、従業員、お取引先様の健康の確保に必要な措置を講じながら、安心･安全な製品の安定供給に努めております。

引き続きその責任を果たしながら、「Refresh the World. Make a Difference.（世界中をうるおし、さわやかさを提供すること。前向きな変化をもたらすこと。）」の事業目的にのっとり、地域社会にとって必要とされる支援を継続的に検討･提供してまいります。

感染症指定医療機関および保健所へ清涼飲料の無償提供

2020年7月、コカ･コーラシステムでは、新型コロナウイルス感染症への対応にあたられている全国の医療従事者の皆様を応援するため、医療機関などに対して清涼飲料約130万本を寄贈する「Refresh Japan」プログラムをスタート。当社もシステムの一員として、北東北の20の感染症指定医療機関に計38,400本を寄贈しました。

また、2021年4月、当社独自の取り組みとして、休みなく地域住民の生活を守るべく尽力されている保健所職員の皆さまに感謝するとともに、コカ･コーラ社製品をお届けすることで、多忙な毎日に少しでもリフレッシュできる瞬間をご提供したいという思いから、岩手県、青森県内の保健所17箇所に対し清涼飲料8,400本を寄贈しました。

感染症指定医療機関へ寄贈する様子

岩手県、青森県の保健所へ当社製品を寄贈する様子

自動販売機に抗菌･抗ウイルス対策を実施

当社は、公共性の高いロケーションに設置している自動販売機のうちの1,600台に対しコーティング剤を塗布しています。

このコーティング剤は、塗布することで抗菌・抗ウイルス加工を行うことができ、お客様が自動販売機で製品を購入される際の安心・安全にも配慮しております。

新型コロナウイルスワクチン職域接種の実施

当社は、新型コロナウイルスワクチンの職域接種に関する政府の方針に沿い、ワクチン接種の加速化と集団免疫の早期獲得、経済活動再開への貢献を目的に、職域接種を実施しています。

2021年8月から10月にかけて合計3,000人規模で行った職域接種は、当社グループの従業員、および関連会社の従業員とその家族を対象に行い、ワクチン接種を希望する従業員が安心してワクチンを接種できるよう、接種日や副反応による体調不良が発生した場合に特別有給休暇を付与することとしました。

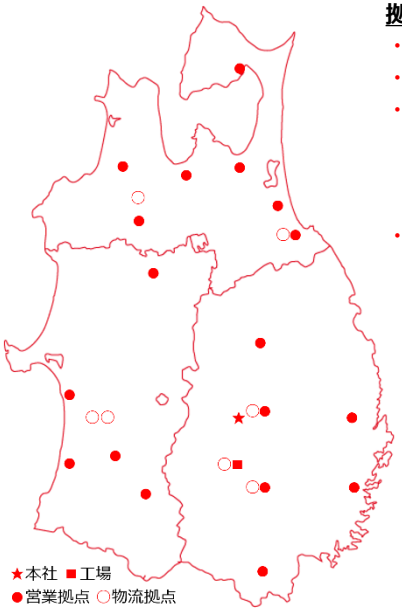
また、2022年4月にも盛岡グランドホテル様ご協力のもと、3回目となる職域接種を1,000人規模で実施し、地域におけるワクチン接種の負担軽減にも貢献し、多くのステークホルダーの方に感謝のお言葉を頂戴しました。

1,200人規模で行った3回目職域接種の様子

雇用の維持・創出/多様性の尊重

多様性と受容性

グローバルにビジネスを行う企業グループとして、市場と職場の両方で多様性を理解し、受け入れ、運営する能力は、コカ･コーラシステムの持続可能な発展に不可欠です。従業員の多様な声を受け入れ、ワークライフバランスやキャリア開発の推進、労働安全の徹底を図っています。



拠点: 合計 27箇所

- 本社
- 製造拠点: 1箇所
- 営業拠点: 計 18箇所
  - 岩手県: 6箇所
  - 青森県: 7箇所
  - 秋田県: 5箇所
- 物流拠点: 計 7箇所
  - 岩手県: 3箇所
  - 青森県: 2箇所
  - 秋田県: 2箇所

従業員（2021年12月31日時点）

- 合計 788名
  - 岩手県: 464名
  - 青森県: 169名
  - 秋田県: 155名
- 従業員の男女比
  - 男性: 75.0% (591名)
  - 女性: 25.0% (197名)
- 外国籍
  - アメリカ: 1名

過去10年の採用実績 （五十音順）

- **大学/大学院**
  - 青森公立大学、秋田大学、秋田県立大学、岩手大学、岩手大学大学院、岩手県立大学、岩手県立大学大学院、神奈川大学、神田外語大学、駒沢大学、札幌大学、札幌国際大学、静岡大学、専修大学、千葉商科大学、中央大学、東海大学、東京経済大学、東北大学、東北学院大学、名古屋商科大学、新潟大学、弘前大学、富士大学、法政大学、宮城大学、明治大学、盛岡大学、山梨学院大学、早稲田大学、
- **短大/高専/専門学校**
  - 岩手県立大学宮古短期大学部、岩手県立大学盛岡短期大学部、大原情報ビジネス専門学校
- **高等学校**
  - 青森商業高校、秋田工業高校、一関学院高校、一関修紅高校、黒沢尻工業高校、五城目高校、紫波高校、花巻農業高校、弘前実業高校、宮古商工高校、明桜高校、盛岡農業高校、湯沢商工高校、由利高校

新型コロナウイルスへの特別措置

当社は、政府の新型コロナウイルス感染症対策会議での臨時休校要請表明を受け、全従業員に対し年次有給休暇とは別に特別休暇制度を設け、その期間の100%の給与も保障。当社事業エリアである北東北における感染拡大防止を図るとともに、臨時休校の影響を受ける従業員の家庭を守る取り組みを行っています。

柔軟な働き方を推進

当社は、従業員の家族や家庭にも寄り添い、柔軟な働き方ができるような体制づくりを進めています。例えば、女性だけではなく、男性でも産前・産後の家事や育児のための休暇を取得できるようにしており、従業員が望むそれぞれのワーク・ライフ・バランスを実現できるように努めているほか、本人の希望により転居や単身赴任を伴わない働き方の選択や申請者の能力向上を目的とした副業を許可する制度を整えています。

また、労働安全も徹底し、当社グループで働くすべての従業員が成長しながら、安全･安心に働ける職場づくりを目指しています。

ダイバーシティ＆インクルージョン

日本のコカ･コーラシステムでは「ジェンダー」「年齢/世代」を優先事項、「障がい者支援」「LGBTQ」を重点事項として注力しています。

社内における支援

当社は、2021年5月までに、同性パートナーにも対応した福利厚生および就業規則の整備を完了しました。現在、従業員およびその同性パートナーを、法的婚姻関係にある配偶者と同等に扱い、慶弔休暇や特別休暇を取得できるよう制度を導入・運用しています。

また、コカ･コーラシステムでは、同性婚の法制化（婚姻の平等）に賛同する企業を可視化するキャンペーン「Business for Marriage Equality（BME）」への賛同も表明しています。

コーポレートガバナンス

人権に関する方針

人権の尊重は企業活動の基本であり、事業を行っている地域社会の持続可能性（サスティナビリティー）を実現するためには、人権尊重の徹底を図る必要があります。ザ コカ·コーラ カンパニーは、世界人権宣言、労働における基本的原則および権利に関する国際労働機関の宣言、国連グローバル・コンパクト、および国連のビジネスと人権に関する指導原則に基づいて人権に関する方針を策定しており、これは日本のコカ·コーラシステムにも適用されます。また、次に掲げるサプライヤー基本原則は、ボトリングパートナーとサプライヤーに適用されるものであり、本方針が掲げる期待や取り組みとの整合性を持つ内容となっています。

人権に関する方針で定める項目

「人権に関する方針」では、具体的に以下の項目について定めています。

- 人権の尊重
- 結社の自由と団体交渉の権利
- 強制労働と人身売買
- 土地の権利および水資源
- 報告内容の公表
- 職場のセキュリティ
- 地域社会やステークホルダーとの関わり
- 労働時間、賃金、および福利厚生
- 従業員向けのガイダンスと報告
- 安全かつ健全な職場
- 多様性と受容性の重視
- 児童労働
- 健全なライフスタイル

サプライヤー基本原則

各国における法令遵守を基本として、児童労働の禁止、強制労働の禁止、集会と団体交渉の自由、健全で安全な職場環境、環境への配慮など10項目の行動原則が定められています。最高水準の品質、誠実さ、卓越性、法令遵守などのザ コカ·コーラ カンパニーが重視する価値をお取引先に理解していただき、ともに推進していくための世界共通の指針です。

コンプライアンス

当社は、法令遵守はもちろんのこと、社会的良識を持って誠実に行動し、すべてのステークホルダーから信頼を得ることで、経営理念「One Team」の実現を目指してまいります。

【コンプライアンス基本方針】

1. お客さまとの関係
   常にお客さまの目線に立ち、お客さまのご満足を追求します。
2. カスタマーとの関係
   共にお客さまのご満足を追求するパートナーとして、お互いの繁栄を目指します。
3. サプライヤーとの関係
   健全な取引を通じて、相互信頼のもと、共存をはかります。
4. 従業員との関係
   すべての従業員の考え方や立場の違いを理解し、尊重します。
5. 地域社会との関係
   地域社会を支え、より豊かな社会の実現に貢献します。
6. 株主との関係
   経営の透明性をはかり、事業を安全かつ効率的におこないます。
7. 組織の一員として
   組織の一員としての自覚を持ち、責任ある行動をとるよう心がけます。

日本のコカ·コーラシステムのガバナンスについて

コカ·コーラシステムは、世界各国でグローバルな事業目標に沿った国内の年間事業計画を立案・遂行しています。日本においては、この年間事業計画に基づいて、日本コカ·コーラおよび全国のボトラー各社の社長の合意に基づいた事業運営を行っています。また、日本におけるシステム内の合議については、事案の内容に応じて社長会や全国会議などの会議を通年で適宜開催し、コカ·コーラシステムの事業運営上重要な情報の共有、検討を行い、合意形成を図っています。

拠点一覧

本社	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通一丁目7-25	TEL 019-613-6665
盛岡営業部	〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南三丁目6-3	TEL 019-638-0405
盛岡物流センター	〃	TEL 019-638-0425
花北営業部 / 花北物流センター	〒024-0014 岩手県北上市流通センター19-42	TEL 0197-68-2861
西根営業所	〒028-7405 岩手県八幡平市平舘25-142	TEL 0195-64-1041
宮古営業所	〒027-0036 岩手県宮古市田鎖第９-60-6	TEL 0193-62-4081
一関営業所	〒029-0132 岩手県一関市滝沢字鶴ヶ沢7-54	TEL 0191-26-2228
釜石営業所	〒026-0001 岩手県釜石市大字平田1-6	TEL 0193-26-7575
花巻工場	〒025-0037 岩手県花巻市太田29-200-1	TEL 0198-28-2260
花巻ロジスティクスセンター	〃	TEL 0198-28-2262
岩手ディストリビューションセンター	〃	TEL 0198-29-4461
秋田営業部	〒011-0901 秋田県秋田市寺内字神屋敷295-49	TEL 018-846-3670
横手営業部	〒013-0102 秋田県横手市平鹿町醍醐字当面町73	TEL 0182-25-3491
大仙営業所	〒014-0072 秋田県大仙市大曲西根字仁応治500-1	TEL 0187-68-2990
本荘営業所	〒015-0852 秋田県由利本荘市一番堰25	TEL 0184-22-8357
秋北営業所	〒018-3501 秋田県大館市岩瀬字羽貫谷地山下10-1	TEL 0186-54-0006
秋田ディストリビューションセンター	〒010-1417 秋田県秋田市四ツ小屋字与左衛門川原385-1	TEL 018-839-1771
青森営業部	〒030-0113 青森県青森市第二問屋町三丁目4-12	TEL 017-752-1688
八戸営業部	〒039-1121 青森県八戸市卸センター一丁目15-20	TEL 0178-28-5210
八戸物流センター	〃	TEL 017-821-1150
五所川原営業所	〒037-0093 青森県五所川原市大字一野坪字朝日田205	TEL 0173-35-3026
弘前営業所	〒038-0243 青森県南津軽郡大鰐町大字八幡館字山下17-6	TEL 0172-47-7500
十和田･三沢営業所	〒033-0074 青森県上北郡六戸町小松ヶ丘四丁目77-720	TEL 0176-53-3083
むつ営業所	〒035-0043 青森県むつ市南赤川町1-33	TEL 0175-22-1250
野辺地営業所	〒039-3154 青森県上北郡野辺地町字上小中野25-21	TEL 0175-64-4118
青森ディストリビューションセンター	〒038-0243 青森市浪岡大字徳才子字山本171	TEL 0172-62-4305

One Team
MICHINOKU COCA-COLA BOTTLING GROUP